



2020年 3月発行

有田市社会福祉協議会
ホームページはこちら



ありだし社協だより

宮原小学校6年生

「将来の夢」

小学校6年生児童代表が
毎号将来の夢を発信！



10年後、成長した姿を
地域の皆さんに発信します！



社協だよりは、「赤い羽根共同募金」配分金の一部で発行させていただいている。



令和元年度 赤い羽根共同募金

総額 3,622,413 円 (令和2年1月末現在)



今回も市民の皆さま方の温かいご理解と自治会の方々から格別のご協力を賜り、
このように心のこもったご寄付をいただきましたことに心より御礼申し上げます。
また、募金箱の設置や職域募金にご協力いただいた事業所の皆さま方、誠にありがとうございました。

法人募金として、次の方々からも温かいご協力を賜りました。

有限会社宮原自動車
有限会社ボウキヨウ
株式会社上岡工業
株式会社早和果樹園
有田交通株式会社
和協会
株式会社ヤナセ
株式会社嶋治水産

阪本・野上保険事務所株式会社
逢井八角網漁業生産組合
一般社団法人有田市医師会
株式会社近畿コンサルタント
有田生コンクリート産業株式会社
大日本除虫菊株式会社 紀州工場
株式会社東亜プロパン商事
社会福祉法人有田ひまわり福祉会

有田食品株式会社
株式会社上野山塗工所
株式会社クリーンテック
株式会社サザンクロス
富士手袋工業株式会社
紀伊国屋工業株式会社

他、匿名希望の方
(順不同、敬称略)

町のみんなで集めた募金は、じぶんの町を良くする活動に使われています



共同募金では、集まった募金の約7割は募金をいただいた地域で使われています。
残りの約3割は市区町村を超えた広域的な課題を解決するための活動に、都道府県の範囲内で使われています。有田市の皆さまからいただいた募金は、県共同募金会を通じ、有田市内および県内の様々な福祉活動を支援するために活用されます。

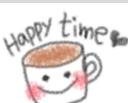
また、募金の一部は災害等準備金として積み立てられ、災害ボランティア活動など被災地支援にも役立てられています。ご協力ありがとうございました。

いきいきサロン のご案内

手作りおやつとおいしいコーヒーを味わいながら、
楽しいひと時を過ごしませんか？ 介護や健康に関するお話しや、簡単なレクリエーションなどもあります。おひとりでも、お友達やご家族と一緒に一緒でもどなたでもお気軽に立ち寄りください。

日 程：毎月第1木曜日

時 間：午後1時30分～3時30分



時間中、いつ来ても いつ帰ってもOK♪

場 所：有田市福祉館なごみ 2階 研修室

お茶代：100円（おやつ付き）

※ 今月の開催は中止とさせていただきます

もの忘れ・介護 相談サロン

介護に関する疑問や悩みを何でも相談でき、何でも話し合い、共感し合える場として、毎月1回、「もの忘れ・介護相談サロン」を開いています。認知症の方、ご家族の方、その他介護でお困りの方など、どなたでもご参加いただけます。【申込不要】

日 程：毎月第1木曜日

時 間：午後1時30分～3時30分

場 所：有田市福祉館なごみ 2階 介護者教室

地域の少人数の集まりなどにも出張します！

お気軽にお問い合わせください。

有田市社会福祉協議会 88-2750

地域協働促進会議の活動から

経験者だから言える生の声
「とにかく逃げて！」

毎年“どこか”で起くる災害
“どこか”が有田市になるかも？！

有田市社協では、今年度、国の「小規模法人のネットワーク化による協働推進事業」を活用して、高齢者・障がい児者を支援する福祉事業所や医療機関等と地域協働促進会議を組織し、「災害時における福祉施設や事業所の自助力強化と連携」「地域との協働」をテーマに協議をしてきました。

次の6点が特に重要で、今後も取り組みを続けます。当たり前のように、業務に追われ、きちんとできていないことが反省です。

- ① 最新の被害想定を正しく知り備える
- ② 各施設で独自に避難判断基準を設ける
- ③ 十分な備蓄と使用計画の立案
- ④ 自施設以外に避難場所を確保する
- ⑤ 避難所運営を協議する場をもつ
- ⑥ 地域住民の防災意識を高める

これらを具体化するために
施設の強みを活かして貢献します

一つの取り組みとして、特別養護老人ホーム愛宕苑では、地域の皆さんを招いて行う「あたごカフェ」で非常用トイレセットを紹介し、参加者の皆さんも「いつもこれを鞄に入れておけばいいなあ」とサンプルをいただき喜んでおられました。

今後も各事業所で、家族さんに対してやカフェでの啓発に取り組みます。

地域協働促進会議では、何度も熊野川の氾濫による水害を経験している田辺市社協本宮地区事務所が運営する高齢者入所施設へ視察に行きました。その日は穏やかに流れていた川ですが、何度も施設や地域を苦しめてきたそうです。

「紀伊半島豪雨災害の時には、消防団など地域の協力もあり、避難することができた。しかし、暗闇となる夜間の避難行動でパニック状態になつた方や、避難先の環境によって不安定になつた方もいて、その度、何が最善かの判断を迫られることがあります。ただ言えるのは、『命を守る』ことを最優先に考えて行動しなければならない。」とお聞きしました。

お話を聞かれて、逃げるなどを前提に、職員の加配や、連絡手段の確保、備蓄品整備など準備すべきことがたくさんあると思いました。

施設ができないことを開示する

住民もそうですが、施設も、できること・できないことを地域と共有し、災害時に連携するため普段から一緒に活動し、地域にある施設として住民に認識してもらう必要性を感じています。社会福祉協議会としても、住民同士はもちろん、施設や専門職が住民と出会える場、対話できる場を創っていきます。

高校生が入所者と避難訓練を体験

箕島高校情報経営科3年生地域課題研究班の生徒が、ひまわりケアサービスの避難訓練に參加しました。次代を担う高校生が、入所者と訓練したこと、「共助」について考えるきっかけになりました。地域協働促進会議では今月、箕島高校1年生に防災授業を実施予定です。

また、この時の訓練には、グループホームひまわりの運営推進会議委員である住民も参加し、施設職員の声かけによつて入所者の不安感を軽減できること実感したと感想をいただきました。

避難訓練シエアリングから見たこと

地域協働促進会議では、別の施設の避難訓練方法を共有し、訓練の計画立案時から複数の職員で検討する必要性や、常に停電を想定した避難方法等を考えることなどを学びました。

そして最大の課題は、夜間職員が限られた中

での避難です。やはり、このでも地域住民と普段からつながりをつくること、その中で施設のもつ強みも弱みも、理解

いたくことが
解決の糸口に思
えました。





高齢者の用意を聞く

1月の「むもむカフュ」には有田市立病院もの始め外来の高橋先生や看護師さんも来られ、「高齢者の運転」についてお話しして下さいました。

参加者の皆さんも先生の話をきっかけに、「まだまだ運転したい」「危ないので免許を返納した」など、それぞれの状況やそれにまつわる様々な思いを話されました。

実際、免許を返納すると生活の足が奪われ、買い物に行けない、人との交流が少なくなるなど、一概に「高齢者の運転はダメ」とは言えない事情もあります。これに限らず、「みんなについてベストな方法を見つける」とは難しいものです。

皆さんのが自身の思いをいきいきと話されるのを聴き、私たちもできるだけ、本人の思いに寄り添えるよう、これからも認知症のご本人やご家族、高齢者の方に気軽に思いを話していただける機会をもつと作っていかなければ、との気持ちを新たにしました。

※「むもむカフュ」は、地域の誰もが集い、交流し、認知症への理解を深め、支援の輪を広げる目的で毎月開催しています。

お問い合わせは、有田市社会福祉協議会（電話 88-2750）へ。

ひとりのママの想いから誕生した

「マモッチャクラブ」

ママがチャイルド(子ども)を守っちゃるクラブ

居場所づくりプロジェクトで誕生した AGALA で出会った子育てママの、頻発する災害に対して、子どもたちに生き抜く力をつけたいという想いから社協が一緒に考えようになりました。

まずは「仲間探しから」ということで、昨年9月にキックオffイベントを開催し、箕島地区で子育てをするママやパパが集まって語らいました。その時には、発起人が自分の言葉で皆さんに想いを語ってみようとなり、何度も一緒に練習をして、本番に臨みました。

発起人は、パワーポイントを作成するのも、人前でスピーチするのも初めてとおっしゃっていましたが、とても立派にされ、私たち社協職員はその姿に勇気をもらいました。その結果、参加された皆さんが継続して一緒に活動を考えたいと表明されました。また、その際に出た意見は子どもたちが通う箕島小学校運営協議会にも報告され、全ての家庭に災害時の避難場所の確認等を促すプリントが配付されました。

その後、具体的な活動内容を何度も協議し、名称を変更して開催される地域食堂「カレーはうす」において、毎回防災ワークショップをすることと、見守りの大人たちと親の対話の場を創ることが決定しました。

この活動は、和歌山県社協から指定を受けている福祉教育モデル事業として行っています。

一人の住民の課題意識をみんなが共有し、解決に向けて自分たちにできることをやっていく、このプロセスが福祉教育であり、今後も対話の場を設け、丁寧に振り返りを重ねていきます。



アドバイザー：摂南大学上野山講師

